１．基本構想の背景と位置づけ

1) これまでの検討経緯

区では、さらに多様化するニーズに応えることやユニバーサルデザインへ対応するため、千代田区スポーツ振興事業推進委員会による提言、区民からの要望を踏まえ、新スポーツセンター整備に向けた検討を行ってきました。

表 1　これまでの経緯

H27.3.30	**新スポーツセンター整備の「基本コンセプト」の提言の提出**　千代田区スポーツ振興事業推進委員会より、平成 27 年３月に策定した「ちよだみらいプロジェクト」における施設整備計画を踏まえ、新スポーツセンター整備の「基本コンセプト」の提言が提出される。
H27.9.18	**要望書・陳情書の提出**　体育協会から新スポーツセンターを小川広場に整備することについて、区及び区議会に対し要望書・陳情書が提出される。
H27.10.13	**公共施設整備特別委員会での審議が開始**
H27.12.2	**新スポーツセンター建設候補地の選定**　公共施設整備特別委員会の審議において、建設候補地を現在のスポーツセンター、小川広場、旧今川中学校、旧練成中学校の４カ所に絞って検討することがまとめられる。
H28.1.13	**区から体育協会へ絞り込みの依頼**　特別委員会の要請に基づき、機能の整理を区から体育協会へ申し入れ。
H28.5.6～ H29.3.31	**新スポーツセンター建設候補地の調査の実施**　新スポーツセンター建設候補地の選定に向け、４か所の建設予定地において敷地条件の整理、規模設定等について調査を実施。
H29.5.17	**新スポーツセンター建設候補地を３か所に絞る**　公共施設整備特別委員会の審議において、新スポーツセンター建設候補地が小川広場を除く３か所に絞ることを確定。
H29.7.27	**機能の整理の提出**　体育協会から機能の整理が提出される。
H30.3	**新千代田区立スポーツセンター整備に関する提言の提出**　千代田区スポーツ振興事業推進委員会より、新スポーツセンターの基本的な考え方をまとめ、委員会としての方向性を示した「新スポーツセンター整備に関する提言」が提出

2) 位置づけの整理

① 国・都

a. スポーツ立国戦略（平成 22 年 8 月文部科学省策定）

■基本的な考え方　　１．人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視
２．連携・協働の推進

b. スポーツ基本法（平成 23 年 6 月公布）

スポーツ界における透明性、公平・公正性の向上の要請や障害者スポーツの発展、国際化の進展等の現代的課題を踏まえ、スポーツに関する基本理念が示される。

c. スポーツ基本計画（平成 24 年策定）、健康日本 21（第 2 次）（平成 24 年策定）

国の関連計画としては、「スポーツ基本計画（文部科学省策定）」、「健康日本 21（第２次）（厚生労働省策定）」があります。これらの計画では、子どもの体力向上、高齢者の体力づくり、生活習慣病の発症予防、健康寿命の延伸などが示される。

d. 東京都スポーツ推進計画（平成 25 年 3 月策定）

世界に誇る成熟都市の模範として、スポーツが都民の日常に溶け込み、スポーツを通じて人々が豊かに暮らせる「スポーツ都市東京」の実現を掲げている。

e. 上記 c 及び d を統合し、東京都スポーツ推進総合計画（平成 30 年 3 月策定）

② 区の関連計画

a. ちよだ未来プロジェクト千代田区第３次基本計画 2015（平成 27 年 3 月策定）

■基本構想３　心豊かに学び、文化を創り出すまちへ

■施策の目標２８　区民が自主的に学習活動に取り組み、また、スポーツに親しめる環境づくりを推進

b. 各関連計画

- 「千代田区保健福祉総合計画」などでは、健康づくり、介護予防、生活習慣病予防、子どもの居場所づくりなどについての指針が示されている。
- 「千代田区地域防災計画（平成 29 年７月見直し）」では、「避難所」として位置づけされる。（現 SC は備蓄倉庫、屋外無線、避難所機能が整備）
- 「千代田区公共施設等総合管理方針（平成 29 年３月策定）」では、地域交流の場（スポーツ施設、区民集会施設、文化・学習施設）として位置づけされている。同方針では、「質の高いサービスを適切なコストで提供」「長期的な視点から維持管理、改修に係るコストを削減」「都市機能更新やまちづくりとの調和を実現」などが管理原則として位置づけられる。

c. 改定千代田区スポーツ振興基本計画（平成 25 年 6 月改定）

基本理念として「スポーツがはぐくむ、豊かな“こころ”と“からだ”。スポーツがつなぐ、“ひと”と“地域”」が位置づけられる。

〇新スポーツセンターに関する位置づけ

新スポーツセンターの建設の検討

将来的に建替えが必要となる新スポーツセンターについて、外部の有識者を含めた検討組織を設置し、建設手法や機能等について検討します。

新スポーツセンターの建設にあたっては、敷地面積などの条件により設置できる施設や機能に制約がでることも想定され、すべての競技種目の専用施設を設けることはかなり困難となります。

新スポーツセンターでは、バレーボールコート３面が確保できる程度の広さの主競技場や観覧席など、施設の中核となる、民間では設置が困難な機能を設ける必要があります。現在、スポーツセンターが避難所に指定されていることから、新スポーツセンターも大規模災害時の避難所としての機能も併せ持つ必要があります。

また、区内にはスポーツクラブ等民間のスポーツ施設も多く、小学校等の複合施設５か所に温水プールがあります。このような区内のスポーツ関連施設の現状を踏まえ、区のスポーツ関係施設や民間スポーツ施設との機能分担も視野に入れた検討も必要です。

さらに、現地で改築する場合には、休館期間の対応なども課題になります。

今後はスポーツの中核となる機能を絞り込んだうえで、既存の施設内容の見直しを含め、新スポーツセンターの整備方針等を取りまとめていきます。

③ 新スポーツセンター整備に関連する提言

a. 新スポーツセンター整備について（平成 27 年 3 月提言）

■基本コンセプトの提言

子どもから高齢者まで幅広い区民が気軽に親しめ、交流を図りながら一緒に運動やスポーツを楽しみ、生涯を通じた健康づくりに取り組める施設

b. 新千代田区立スポーツセンター整備に関する提言（平成 30 年 3 月提言）

■新スポーツセンターに求められる機能（6 つの視点）

（1）誰もが利用しやすいスポーツセンター
（2）多様な役割を備えた「新スポーツセンター」
（3）親しみがあるスポーツセンター
（4）地球環境に配慮したスポーツセンター
（5）災害時の避難所としての役割
（6）官民協働によるによる公益性と収益性

■基本コンセプト

新千代田区スポーツセンターは、「障害のあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで幅広い区民が気軽に楽しめ、交流を図りながら一緒に運動やスポーツを楽しみ、生涯を通じた健康づくりに取り組める施設」として整備する。

■新スポーツセンターの位置づけ

（1）運動やスポーツの拠点施設
〇競技場所拡大に資するサブアリーナの整備
〇個人利用も視野に入れたジムやスタジオ機能
〇障害者スポーツの実施に対応した機能
（2）健康づくりに取り組むことができる施設
〇利用者層に応じた健康づくりに取り組むことができる機器等の整備
〇栄養、健康の情報、相談ブース
（3）気軽に立ち寄れる地域交流の場
〇オープンスペースを活用したスポーツサロン・カフェ
〇高齢者及び子育て世代のスポーツ・運動支援機能
〇スポーツ団体及びサークル活動の情報交換コーナー
（4）地域防災拠点
〇地域の防災備蓄機能と避難所機能
〇災害発生時の情報の受発信機能

※〇は提言内で示された例

2．現状と課題

3）近年の社会動向

① 子どもの体力、運動能力の低下
② 生活習慣病の増加や、余暇・自由時間の重要性の高まり
③ 高齢化による医療費の増大、長寿命化に伴う生きがいの必要性
④ 地域コミュニティの希薄化
⑤ 障害者スポーツの認知度の向上
⑥ コストセンターからプロフィットセンターへの移行

（出典　新千代田区立スポーツセンター整備に関する提言）

4）千代田区の特性

① 地形

台地と低地が接するところに位置する区。皇居から西側に台地が、東側に低地がひろがる。

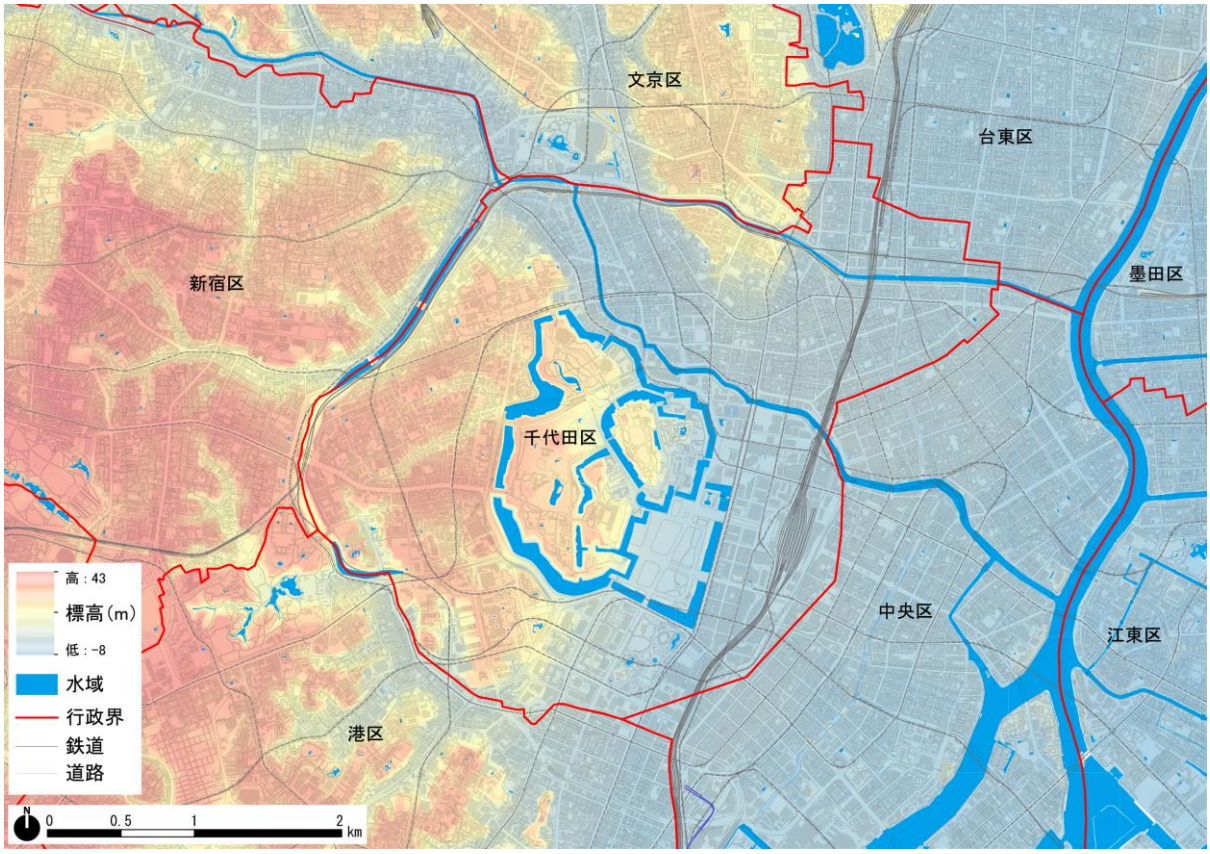


図　1　千代田区地形図

（国土地理院基盤地図情報より作成）

② 土地利用

皇居を取り囲む周辺一帯はかつての江戸城外堀の内側に位置し、江戸のまち割りの名残が道路や区画割の特徴として見られる。南部は官公庁の庁舎など政治･行政の主要機能が集中し、東京駅に近い大手町･丸の内･有楽町や飯田橋･駿河台周辺には大規模なオフィスビルが立ちならぶ。西部は比較的区割の大きな住宅地が、北部には大学や商業地などの賑わいが見られ、地域の特徴に応じた多様なまち並みがある。

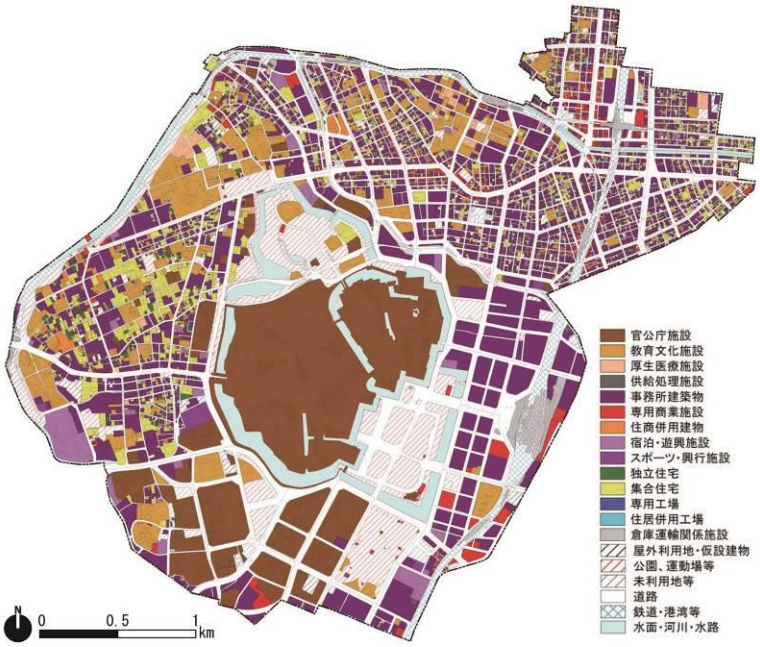


図 2　千代田区土地利用図　*（出典　2018 千代田の土地利用）*

③ 人口

夜間人口は、平成 27 年時点では 58,406 人、平成 30 年９月１日時点では 62,945 人。昼夜間人口比率は、平成 27 年では夜間人口の 15 倍程度で、23 区で最も高い状況である。社会動態は、平成 28 年で転入は 7,966 人、転出は 6,842 人で、転入が転出を上回る。

町丁目別に人口の分布をみると、区西部から北部、北東部にまとまって分布している。



図 3　昼夜間人口の推移　*（出典　2018 千代田の土地利用）*

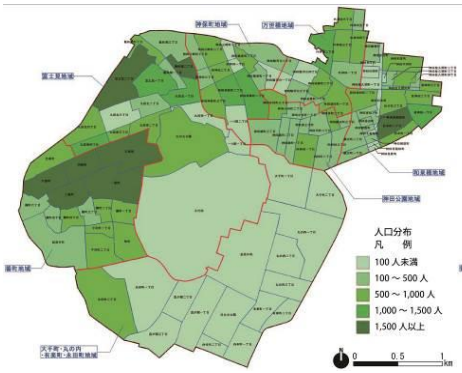


図 4　人口分布図

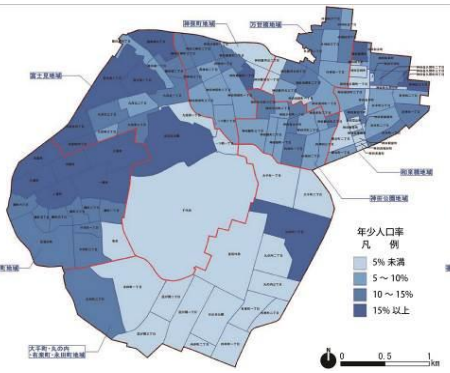


図 5　年少人口率

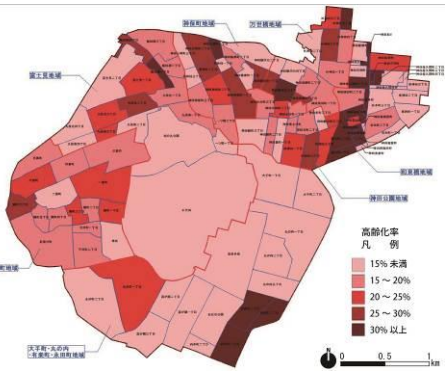


図 6　高齢化率

※図４～６は、住民基本台帳 H30. 1. 1 時点をもとに作成　*（出典　2018 千代田の土地利用）*

5) 本区のスポーツの現況

① 区民のスポーツ実施の状況

a. この１年間に行った運動・スポーツの頻度

「30 分以上の運動を週２回以上」が３割近く、「月１回以上運動を行った」は7割近く

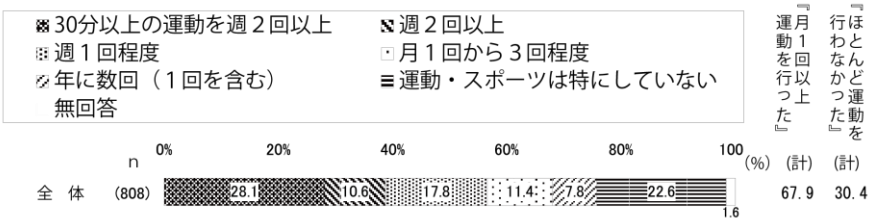


図 7　この１年間に行った運動・スポーツの頻度

b. この１年間に行った主な運動・スポーツ

「散歩やウォーキング」（61.9%）が 6 割を超え、次いで「筋力トレーニング」（17.9%）、「ランニング・ジョギング」（16.2%）、「水泳」（15.1%）

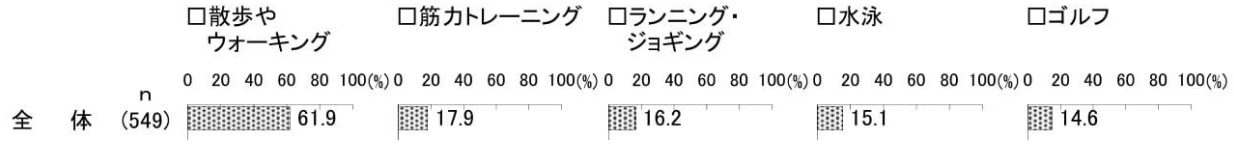


図 8　この１年間で行った主な運動・スポーツ

c. この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由

「忙しくて時間がない」が５割を超え最も高く、次いで「仕事や家事で疲れている」「機会がない」「身近なところに場所や施設がない」が続く。

d. 今後新しく始めたい、興味がある運動・スポーツ

「水泳」が 2 割近くで最も高く、次いで「散歩やウォーキング」「水中運動（ウォーキング、エクササイズなど）」「筋力トレーニング」が続く。

e. 公共スポーツ施設の運営や設備について望むこと

「施設の利用時間の拡大（早朝・夜間）」が 3 割半ばで最も高く、次いで「適正な利用者負担による施設の充実」「快適な施設（空調・清掃・バリアフリーなど）の維持・管理」「施設のトレーニングルームの充実」と続く。

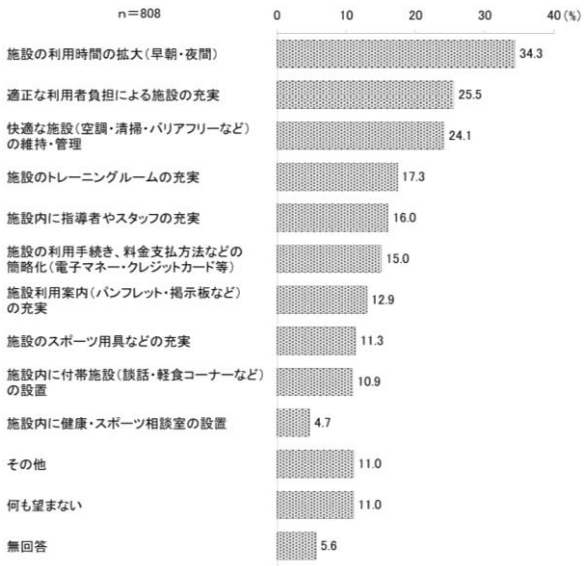


図 9　公共スポーツ施設の運営や設備について望むこと（複数回答）

（出典：第 41 回千代田区世論調査（平成 26 年度実施））

② 地域のスポーツクラブ・団体

a. 学校における運動部活動

平成 29 年度における３校合計の運動部の部活動加入状況は、区立中学校及び区立中等教育学校（前期課程）は 72.8%で多くの生徒が運動部の活動に加入（複数の部活動に参加している生徒もいる）。一方、区立中等教育学校（後期課程）になると 49.1%に低下する。

b. クラブ・サークル、同好会など

千代田区体育協会には、25 の団体が加盟。クラブ・サークル・同好会には、在住者だけではなく、多くの在勤者が登録されていて、千代田区の特性となっている。

表 2　千代田区体育協会加盟団体

相撲連盟	釣友連盟	軟式野球連盟	柔道会
バドミントン協会	卓球連盟	スキー協会	陸上競技協会
ラジオ体操会連盟	狩猟連盟	剣道連盟	弓道連盟
テニス協会	ソフトテニス連盟	水泳連盟	バレーボール連盟
クレー射撃連盟	民踊連盟	アーチェリー協会	空手道連盟
バスケットボール協会	ゲートボール協会	アマチュアダンス協会	ゴルフ協会
太極拳連盟			

c. 総合型地域スポーツクラブ

平成 24 年に、区内初の総合型地域スポーツクラブとして「富士見スポーツ・文化クラブ」が設立。活動種目は、ニュースポーツ、空手、バドミントン、卓球、健康麻雀、社交ダンス。

d. コミュニティ等

地域の自治組織である町会や、福祉、まちづくり及び環境保全といった、社会的な課題の解決に自発的に取り組む、ＮＰＯやボランティアグループなどの団体が、活発に活動している。

③ 既存スポーツ施設

表 3　公共スポーツ施設（*千代田区ホームページ、スポーツ・運動ガイドマップによる*）

施設名		住所	施設内設備等
スポーツセンター		内神田 2-1-8	主競技場、卓球場、剣道場、柔道場、弓道場、トレーニングルーム、多目的室、プール
昌平童夢館（ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ）		外神田 3-4-7	プール、体育館、屋上校庭
神田さくら館（ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ）		神田司町 2-16	プール、体育館、校庭
麹町小学校（ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ）		麹町 2-8	プール、体育館、校庭
富士見みらい館（ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ）		富士見 1-10-3	プール、体育館
ちよだパークサイドプラザ		神田和泉町 1	プール、体育館
いきいきプラザ一番町		一番町 12	プール
外濠公園総合グラウンド		五番町	野球場・競技場
花小金井運動施設		小平市花小金井南町 3-2-7	軟式野球場（2 面）
夢の島東少年野球場		江東区夢の島	少年軟式野球場（2 面）
スポーツ開放校	麹町中学校	平河町 2-5-1	体育館
	神田一橋中学校	一ツ橋 2-6-14	体育館
	旧今川中学校	鍛冶町 2-4-2	体育館
	アーツ千代田 3331	外神田 6-11-14	体育館
校庭開放校（区立小学校８校）		麹町小学校（麹町 2-8） 九段小学校（三番町 16） 番町小学校（六番町 8） 富士見小学校（富士見 1-10-3） お茶の水小学校（神田猿楽町 1-1-1） 千代田小学校（神田司町 2-16） 昌平小学校（外神田 3-4-7） 和泉小学校（神田和泉町 1）	校庭
都立日比谷公園テニスコート		日比谷公園 1-6	テニスコート（5 面）

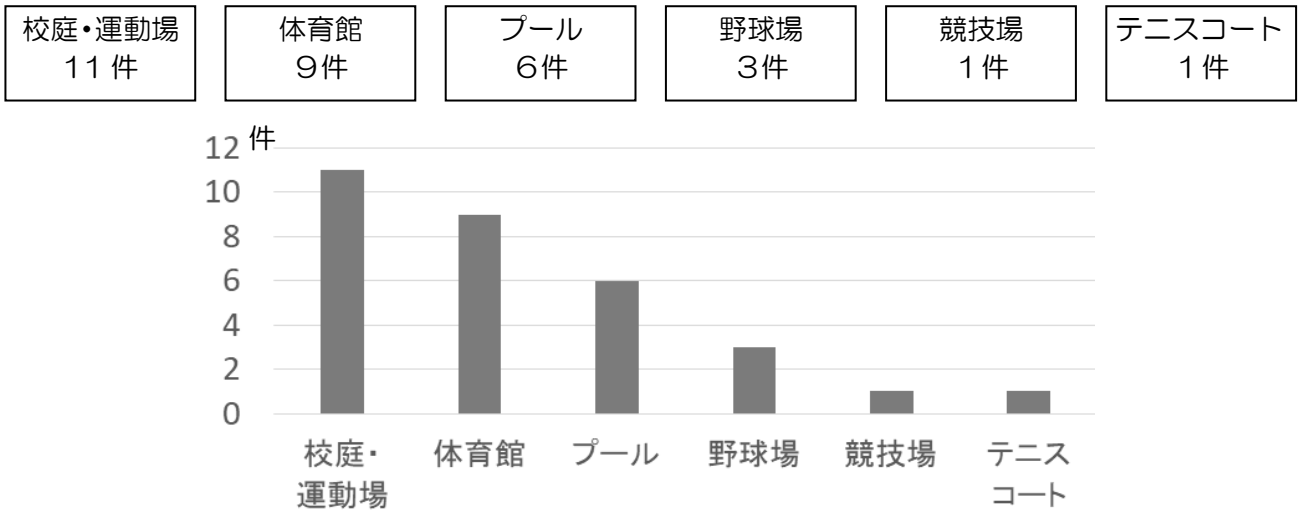


図 10　千代田区公共スポーツ施設の内訳（スポーツセンターを除く）

※この他、26 ヶ所の公園・広場等、皇居内堀を周回するランニングコースがある。

※公共スポーツ施設は、体育館やプール、校庭、野球場など、団体利用などで競技ができるとともに、多機能利用の施設内容である。

表 4　民間スポーツ施設（*i タウン、インターネット検索による*）

施設名	施設内設置等
エスフォルタ水道橋、ハイテクスポーツ塾、P.M.S.Rebirth、セントラルスポーツジムスター飯田橋サクラテラス…等　25 件	ジム・フィットネス・マシン・トレーニング等
GOLFSPACEZERO、ロイヤルスターゴルフクラブ室内練習場、ゴルフゾンアカデミー日比谷、インドアゴルフ坂の上…等　16 件	ゴルフ練習場・ゴルフレッスン・打ち放し等
ランニングステーション earth、ラフィネランニングスタイル、Run Pit、Runbase 半蔵門ランナーズサテライト…等　12 件	ランニングステーション
シュウボクシングジム、PHOENIX キックボクシング＆ムエタイ、ボクシングジムフェニックススタジアム、極真会館、徳晋会…等　12 件	ボクシング・ムエタイ・格闘技・空手・居合道・太極拳等
Wow'D赤坂店、お茶の水ヨガアカデミー、スタジオヨギーTOKYO スタジオ…等　11 件	ヨガ、ピラティス等
YWCA フィットネスイワオ、ティップネス丸の内店、EyeCandy 秋葉原スタジオ…等　8件	ダンス、バレエ、スタジオ等
コナミスポーツクラブグランサイズ大手町、神田アクアビクスプール、…等　5件	プール
コナミスポーツクラブグランサイズ大手町…等　3 件	スパ・サウナ等
JACK 水道橋店、Imperial	ビリヤード・ダーツ
Akiba 卓球スタイル	卓球
弁慶橋ボート場	ボート・釣り場
ミヤモトフットサルパーク	フットサル
上智大学真田堀運動場	運動場

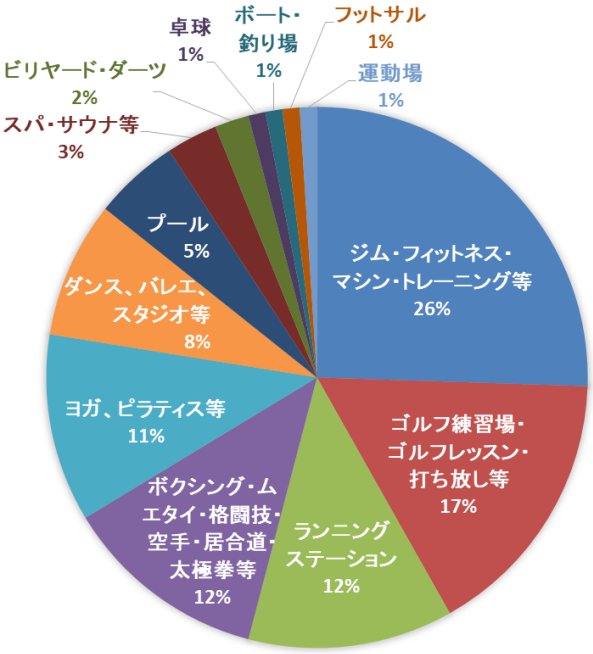


図 11　千代田区民間スポーツ施設の内訳

※設置内容が多様である施設もあり、各店舗数の合計が調査店舗の総合計とはならない。

※民間スポーツ施設は、フィットネスジムやランニングステーション、ヨガスペース、ゴルフ教室、格闘武道など、一部に特化した施設が分布。個人で楽しめる施設としての傾向がある。

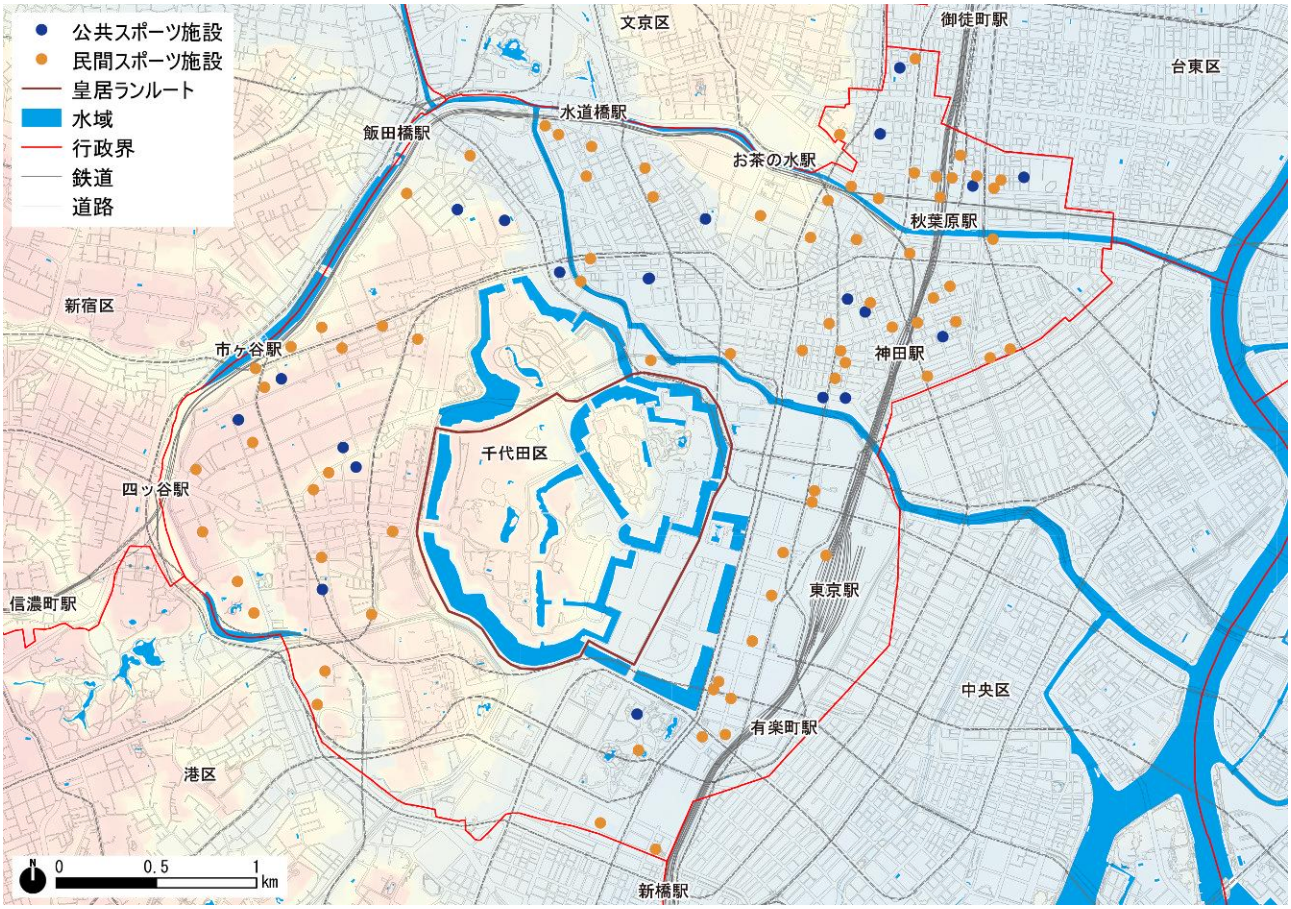


図 12　千代田区スポーツ施設分布図（*区資料よりプロット。ベースは国土地理院基盤地図情報より作図*）

※スポーツ施設は公共・民間ともに区内全域に分布し、特に民間施設は駅前に多い。

④ スポーツ施策

a. 改定千代田区スポーツ振興計画（平成 25 年 6 月策定）

基本目標１　スポーツ実施率の向上

基本目標２　区民のスポーツを支える環境づくり

基本目標３　スポーツを通したコミュニティの活性化

b. ちよだみらいプロジェクト-千代田区第 3 次基本計画 2015-（平成 27 年 3 月策定）

● **めざすべき 10 年後の姿**

・区民一人ひとりが、多様な学習活動の機会を得て交流を深め、生涯にわたって学びを深めることができ、その成果を活かすことのできる生涯学習社会となっている。

・2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、スポーツへの関心が高まり、区民がスポーツ・運動を通じて様々な人たちと交流し、健康で生き生きと生活している。

● **10 年後の姿を実現するための主な取組み**　※関連項目抜粋

取組項目	取組内容
新スポーツセンターの整備	誰もが楽しくスポーツに親しめる多目的な機能を備えた施設を整備します。
講座・講習会の充実	学習・スポーツ活動を始めようとするきっかけとするために、各年代にあわせたテーマの講座・講習会を開催します。
人材育成・派遣制度の充実	コーディネーターやボランティアなど人材バンクの充実を図り、スポーツ活動の指導者として派遣制度を推進していきます。

c. その他の施策

ｱ コミュニティスクール

小学校の授業や区の事業が行われていない時間において、区立複合施設（昌平童夢館、神田さくら館、麹町小学校、富士見みらい館）を一般に開放。

ｲ 中学校の体育館（スポーツ開放）利用

中学校の体育館を夜間定期的に開放。麹町中学校、神田一橋中学校、旧今川中学校、アーツ千代田 3331 では、バドミントン、バレーボール、卓球などができる。

ｳ 児童センター・児童館事業運営

児童の健全育成と保護者の子育て支援のため、健全な遊び場・交流の場を提供。

実施場所は、西神田児童センター・各児童館で、開館時間は午前９時～午後５時。「中高生専用タイム（午後５時～6 時）」を設定。

ｴ 中高生の居場所づくり

スポーツや音楽活動を通して、中学生・高校生等、年長児童の情操を豊かにし、体力健康の向上を推進。実施場所は西神田児童センター、神田児童館、一番町児童館。

ｵ 高齢者活動センター事業運営

高齢者総合サポートセンター内で、60 歳以上の千代田区民を対象に登録制の施設を無料提供。内科・整形外科・リハビリ等の各種相談、健康づくり、知識を広げることを目的とした各種講座・講習会、世代間交流を深める様々なイベントを実施。

ｶ シルバートレーニングスタジオ

区内在住 65 歳以上の方が、身近な施設で気軽に運動できる場を提供し、閉じこもりの防止及び運動機能の低下を予防するため、簡単な運動やリラクゼーションを中心とした事業（教室）を実施。実施場所はかんだ連雀、富士見区民館、麹町区民館、岩本町ほほえみプラザ、神保町区民館、いきいきプラザ一番町、ちよだパークサイドプラザ、神田児童館、神田公園区民館、四番町集会室、高齢者総合サポートセンターかがやきプラザ、和泉橋区民館、アーツ千代田 3331。

6) 現スポーツセンターの現況

① 施設概要

開設年月日		1972 年 10 月開設
所在地		千代田区内神田２丁目１-８
敷地面積		3,201 ㎡
延床面積(建築面積)		11,854m²
敷地特性		首都高速都心環状線が施設の後側に位置
建ぺい率		建ぺい率 75.3%（耐火建築物で上限 100%）
容積率		容積率 370.2%（上限 800%）
用途地域		商業地域
道路幅員（m）		約 18m（5 車線）
駐車台数		地下駐車場 23 台
管理者（団体）		ミズノグループ
スポーツ系	主競技場（アリーナ）	**メイン**：594 ㎡ （バレーボール、バスケットボール、バドミントン）
	観客席	不明
	プール	**メインプール** 25m×6 コース (平日：正午～21:00、日曜：09:00～17:00、祝日：正午～17:00)
	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ	面積：231 ㎡(バーベル、エアロバイク、腹筋台)
	卓球場	有：195 ㎡
	武道場	剣道場：360 ㎡、柔道場：360 ㎡ 弓道場：468 ㎡、相撲場：216 ㎡
	休憩所・更衣室	有(シャワー室あり)
	その他	多目的室（面積：90 ㎡）
文化系	会議室	第一：36 ㎡(7F、15 人)、第二：62 ㎡(7F、36 人) 第三：99 ㎡(8F、60 人)) A：45 ㎡(5F、20 人)、B：45 ㎡(5F、20 人) C(神竜会議室)：108 ㎡(4F、51 人)
	その他	絵画教室：66 ㎡(20 人)、音楽室：66 ㎡(30 人) 映写室：66 ㎡(30 人)、和室：15 畳(24 人) 茶室：4.5 畳(6 人)、多目的ルーム：99 ㎡(48 人) スタジオ：56m²、採暖室
大会	スポーツ系	都大会：バドミントン（東京都バドミントン協会） 区大会：バレーボール（千代田区バレーボール連盟） バドミントン（千代田区バドミントン連盟） 剣道（千代田区剣道連盟） 空手道（千代田空手道倶楽部）
	文化系	区内：ダンスパーティー 体力測定
講座等	スポーツ系	すぽすたちよだクラブ会員限定（プール、スタジオ) 週間プログラム(どなたでも、フィットネス、エクササイズ) プール関連教室、フィットネス教室
	文化系	九段 L.L(生涯学習)カフェ 生涯学習教養講座 人材バンク活用講座 区民自主企画運営講座
利用時間 休館日		9:00～21:00 毎月第３月曜日/年末年始(12/29-1/3)


メインアリーナ


プール


多目的室


トレーニングルーム


会議室


剣道場

② 利用者の属性

a. 改定千代田区スポーツ振興基本計画（平成 25 年 6 月）からの利用属性

・在勤や在学者の利用が８割と多い傾向

b. 指定管理者が実施した利用者アンケート（平成 28・29 年度）からの利用属性

・性別：女性の利用がやや多い

・年代：40 代以上の利用が多く、特に 60 代以上の利用が多い

・利用時間帯：平日利用が多く、特に午後や夜間に多い

・施設利用頻度：週１・２回が６割を超え、利用頻度が高い

・交通手段：電車でのアクセスが４割を超え最も多く、徒歩・自転車での利用も多い

・移動時間：１時間以内が９割弱と多く、30 分以内が５割を超える

③ 利用状況（平成 29 年度）

施設名	面積	利用定員（個人）	利用人数	回転数	利用率
主競技場	1,188 ㎡	100 人	72,115 人	3	70.08%
プール	756 ㎡	140 人	48,500 人	4	25.25%
卓球場	390 ㎡	60 人	24,169 人	3	39.15%
剣道場	360 ㎡	60 人	18,564 人	3	30.07%
弓道場	468 ㎡	30 人	21,329 人	3	69.09%
柔道場	360 ㎡	60 人	17,053 人	3	27.62%
相撲場	216 ㎡	60 人	1,854 人	3	3.00%
ゴルフレンジ	57 ㎡	2 人	4,977 人	24	30.23%
トレーニングルーム	231 ㎡	41 人	67,674 人	8	60.15%
集会室 A	45 ㎡	20 人	12,837 人	3	13.86%
集会室 B	45 ㎡	20 人			
集会室 C	108 ㎡	50 人			
多目的室	90 ㎡	30 人	9,684 人	3	31.37%

※利用率（%）＝（利用人数合計／（利用定員×営業日数×回転数））×100

施設名	面積	利用定員	利用件数	回転数	利用率
第1集会室	36 ㎡	18 人	218 件	3	21.19%
第2集会室	62 ㎡	36 人	261 件	3	25.36%
第3集会室	99 ㎡	60 人	323 件	3	31.39%
料理教室	132 ㎡	60 人	157 件	3	15.26%
多目的ルーム	99 ㎡	48 人	693 件	3	67.35%
茶室	4.5 畳	6 人	188 件	3	18.27%
和室	21 畳	24 人	318 件	3	30.90%
映写室	66 ㎡	30 人	374 件	3	36.35%
音楽室	66 ㎡	30 人	427 件	3	41.50%
絵画教室	66 ㎡	20 人	69 件	3	6.71%

※利用率（%）＝（利用件数合計／（営業日数×回転数））×100

※回転数の詳細は、３（AM/PM/夜間）、４（２時間毎）、８（90 分毎）、24（30 分毎）である。

④ スポーツ施設の多目的利用状況（平成 30 年 4 月～7 月）

体育館	バドミントン	30%
	バスケットボール	24%
	バレーボール	21%
	フットサル	10%
	ゴルフ（季節利用）	2%
	卓球	2%
	空手	1%
	剣道	1%
	相撲	1%
	その他	8%

剣道場	剣道	68%
	空手	3%
	太極拳	1%
	それ以外（ダンスなど）	28%
柔道場	柔道	43%
	空手	28%
	合気道	10%
	その他（ダンスなど）	19%

指定管理者ヒアリングによる

7) 課題の整理

関連計画

- スポーツに親しめる環境づくりへの対応
- 質の高いサービスを適切なコストで提供する必要
- 平時は健康増進の場・地域交流の場として、非常時は避難所として機能

スポーツへの参加（する・みる・支える）によって、区民の健康の実現（子ども·高齢者の体力向上、生活習慣病発症予防、健康寿命延伸等）を目指す。

社会動向

- 子どもの体力·運動能力の低下、生活習慣の乱れ、不登校・いじめ等の問題
- 生活習慣病の増加·医療費増大·生活の質の充実や長寿社会における生きがいの必要性
- コミュニティの希薄化による地域機能（青少年健全育成や福祉、災害時の共助等）の低下
- 障害者スポーツ（障害進行予防·機能維持向上·コミュニケーション機会増大·生きがいづくり等）の認知度の向上
- 公的資金中心から官民協働による収益生産対象への転換を目指し、資金が循環しスポーツ環境が自発的に成長する仕組みの実現

多様で身近なスポーツの機会充実、体育·知育·徳育のためのスポーツ環境の充実が必要

区の特性

- 武蔵野台地の東端に位置する緑豊かな皇居を中心に、西側に台地が東側に低地が広がる。西側には坂が多く分布する。
- 歴史が重層しながら、江戸期の都市の骨格を継承し、公官庁街、オフィス街、商業地、住宅地などの多様なまち並み・景観が見られる。
- 昼間人口は夜間人口の 15 倍程度で、昼間人口（就業者·学生）が極めて多い。
- 人口（夜間）の分布は、区西部、北部、北東部に多い。
- 年少人口率は、西部から北部、北東部で高い傾向にある。また、高齢化率の高い地域は北部や北東部に見られる。

- **緑豊かな皇居を中心に、取り囲むように多様なまち並みが連なり、千代田区の魅力となる。**
- **人口分布は、区の西部～北部～北東部に多く、子どもの多い地域もほぼ同様。高齢者は北部·北東部に多い傾向。**
- **子どもから高齢者まですべての区民が利用しやすい環境を整備する必要がある。**

区民のスポーツ頻度等

- 区民のスポーツ実施率は、30 分以上の運動を週 2 回以上は 3 割弱。月 1 回以上の運動では 7 割弱
- 散歩やウォーキングなど身近なスポーツを定期的に行っている区民が多い。
- 「忙しさ」「疲労感」「機会、場所･施設がない」がスポーツ参加の妨げになっている。
- 今後始めたい興味がある運動･スポーツは、水泳、散歩･ウォーキング、水中運動が上位に
- 公共スポーツ施設へ望むことでは、「利用時間拡大」「施設の充実」「快適な施設の維持管理」が上位に

身近に、気軽にスポーツに参加できる環境づくり（施設･指導者･プログラムの充足）

区民のスポーツ環境

- 競技を含む複合的なスポーツ施設は、区立スポーツセンターが唯一の存在。
- その他の区の中核的スポーツ施設は、外濠公園総合グランウンド。区外施設として花小金井運動施設、夢の島東少年野球場。都立施設として日比谷公園テニスコートがある。
- 学校･介護施設との複合施設として、ちよだパークサイドプラザがあるほか、コミュニティスクールとして学校施設を区民に開放している。
- 26 ヶ所の公園･広場等があり、バスケットボールコートやフットサルコート、介護予防遊具などが設置される公園がある。また、皇居内堀を周回するランニングコースも人気がある。
- 民間施設は、大学運動場 1、フットサルコート 1 があるほか、スポーツジム 25、格闘武道 12、ゴルフ 16、ランニング 12、ヨガ 11、ダンス 8 などがある。

・新スポーツセンターは、区の中核的スポーツ施設の役割を担うことが求められる。
・すべての区民が利用できる社会資本としての役割や官民他施設との連携・役割分担を踏まえ、効果的なサービスを提供する必要がある。・子どもから高齢者までだれもが利用しやすい環境を整備する必要がある。

現スポーツセンターの課題

- 老朽化が進行。施設全体が狭小で、競技機能拡充、多目的用途への転用や機能導入が困難
- バリアフリー対応が不十分。ユニバーサルデザイン（国際化含む）に配慮していく必要
- 個人利用施設は混雑により円滑な利用に対応しきれていない。
- 低頻度や用途が限定される設備などを汎用性が高い設備にする必要
- 官民他施設との棲み分けを明確にし、当施設の特異性･サービスの明確化を図る必要
- 平日の午前・午後の利用率を上げ、利用者数の向上を図る必要
- 地球温暖化への配慮が不足
- セキュリティ対策と事故･怪我対策が課題。
- 快適な利用に資する空間や設備が不足

新スポーツセンターでは、共用・管理機能の拡充のほか、競技機能の拡充（大会対応）、運動機能の拡充・追加（日常の健康づくり）、多様な利用を図る機能の拡充が求められる。